



五小だより

5月1日 発行
学校だより 5月号
東久留米市立第五小学校
校長 古矢 美雪

学校創立 60 周年記念
5月の「けやすけ」

進んであいさつをする 五小

——分離礼——

校長 古矢 美雪

「おはようございます。」 「おはようございます。」 「おはようございます。」

第五小学校の毎日は、フランスの作曲家・ドリーブ作曲のバレエ曲『コッペリアのワルツ』の音楽に乗せて、子供たちと教職員の活気あふれるあいさつと共に始まります。私も用事がない時は、校門の前にたち、生活委員の子供たちと共に、登校してくる子供たちとあいさつを交わしながら一日をスタートさせています。

「あいさつは、心と心のかけはし」といわれるように、大きな声であいさつをすると、気持ちが晴れ晴れとします。また、相手と互いにあいさつを交し合う時には、自然と笑顔になり、気持ちも上向きになります。あいさつは心を開放し、まさに心と心のかけはしになるものです。

それでは、どのようなあいさつをすれば、さらに「**進んであいさつをする 五小**」になっていくのでしょうか。4月15日（月）の全校朝会で、私は子供たちに、次のような話をしました。



今日の全校朝会のお話は、「あいさつをする時に、皆さんはいつおじぎをしていますか。」ということについてです。

今、皆さんと、「おはようございます」のあいさつをしましたね。その時に、いつ、おじぎをしましたか。「おはようございます」と言いながら、おじぎをした人もいれば、「おはようございます」と言い終えてから、おじぎをした人もいたことでしょう。

では、校長先生はどうか、というと、校長先生は、「おはようございます」と言い終えてから、おじぎをしました。これには、きちんとした理由があります。

理由の一つは、おじぎをしながら挨拶をすると、声が地面に向かってしまいます。五小の子供たちは、明るくて元気な子供ばかりです。ぜひ皆さんの元気な声を、前に、相手にしっかりと届ける意味でも、「おはようございます」を言い終えて、相手の顔を、目を見ながらおじぎをしたいですね。

もう一つの理由は、例えば耳が聞こえづらい方々は、相手の口の動きを見て、相手が話していることを読み取ります。その時に、おじぎをすることで口が下を向いてしまうと、どうなってしまおうでしょうか。相手の話を読み取る事ができませんね。ですから、おじぎは、「おはようございます」を言い終えてから、した方がよいのです。

ことばとおじぎを分けて行うという意味で、この方法を、【分離礼】と言います。今後も、【分離礼】で、あいさつをするようにしていきたいですね。そして、さらに「**進んであいさつをする 五小**」にしていきたいでしょう。

このような話をした後、次週以降の全校朝会の時には、全校の子供たちが、分離礼でしっかりとあいさつをしました。全校朝会の時だけではありません。登校の時、廊下ですれ違った時、下校の時、校外で会った時等に、進んで分離礼であいさつをしてくれました。素直でとても頼もしい五小っ子です。